

香川県こども計画（素案）についてのパブリックコメント

香川県高松市伏石町 1562 番地 伏石ハイツ第 1 201 号

社会福祉士相談所 LOVE（代表者：田村 遊）

電話：090-7780-7565

意見

○【第 1 II 計画の性格】

ひとつの形式として必要な内容なのかもしれないが、行政職員や専門職ではない一般の県民からすると酷く解り辛い内容なのではないかと思う。また、このような「酷く解り辛い内容」が計画の最初に書かれていることで、読み進める気が失せてしまうのではないかと考える。どうしても必要であれば、計画の最後に記載する等の方法や、当該計画の内容を一言で説明する文言を考慮した方が良く考える。「〇〇法〇条に規定する〇〇」という表記は、その法律・条文の内容が頭に入っているという前提であり、そうではないの方が県民の大多数ではないかと考える。

○【P.75 プレコンセプションケア】

一般の県民の方には非常に馴染みが薄く、解り辛い用語ではないかと考える。計画の完成版には「用語解説」等が付記されるのかもしれないが、明らかに専門（特殊な）用語と思えるので、施策の説明の前に、「プレコンセプションケアとは」という説明が必要ではないかと考える。なお、用語解説等を付記する場合にも、巻末等当該ページから離れた場所ではなく、当該ページの欄外等に記載した方が、「読み手」にとって理解しやすいと考える。

○【P.80～ 11 こどもの情報モラル教育の充実とネット・ゲーム依存対策の推進】

情報モラル教育や依存（症）の防止・治療に関する対策を否定するつもりはない。

しかし、依存してしまうのは、「他に夢中になれることや気を紛らわせられることがない」であったり、現実社会に相談相手がいらない（身近な大人に相談「出来ない」も含めて）ことであったりが大きな原因であると思うので、防止以前にそもそも「依存する必要が無い」環境をつくっていくことが重要ではないかと考える。

また、ゲーム（依存）に関しては、昨今のゲームは、以前のように自分 1 人でコンピュータゲームを楽しむのではなく、ネットで繋がり、仲間（友だち）と一緒に協力してクリアしていくようなゲームがほとんどであると思う。従って、ゲームの世界から自分だけ抜けることは、こどもたちにとっては「人間（友だち）関係から抜ける」ことと、大差ないことと考えているのかもしれない。適正利用に対する家庭や学校での教育指導は重要であると思うが、そういった事柄への配慮も含めた丁寧な指導が大切であると思う。

○【P.85 「現状と課題」の 4 項目目】

「心身ともに未熟な」という文言の削除を強く求めたい。仮に、「これは、こどもの言うことを」であったとしても、意味する内容は寸分変わることなく伝えられると思う。この文言からは、「大人」（ある一定以上の年齢？或いは『こども』でなくなれば）皆自動的に心身ともに未熟ではなくなるのか？という疑問が生じ得るし、仮にそうであるならば 7 ページに記載されている内容と矛盾するように感じる。そして何より、この計画をこども自身が読むことを想定した場合に、傷つけ、ショックを与える原因になり得る。即ち、「不必要な攻撃」に値すると考える。

加えて、「保護者や大人の側が賛同できない場合、」という文言も削除を強く求めたい。上記同様、仮に、「求められているのではなく、時にはこどものために」であったとしても意味する内容は変わらず伝えられると考えることに加え、「結局、保護者や大人の側の意見（賛同）が重要視されるのか。」と読み取れる。

○【P. 89～障害のあるこども、医療的ケアが必要なこども等への支援】

「発達障害児への支援」については、確かに重要なことではあると考えるが、様々な障害（身体、知的等）ある中で、「発達障害」のみを項目立てて取り上げていることが、一種の特別扱いのような感覚を受ける。

また、発達障害について当事者が生きづらさを感じるのは、障害そのものよりも、障害への無配慮やそれに伴う不適切な対応や過剰適応を継続的に強いられた結果の二次障害によるものの方が大きなウェイトを占めていると考える。その点を考慮に入れた支援策や予防策もとても重要ではないかと考える。支援者の理解促進や県民への啓発は、そのために行われるということをもっと前面に打ち出して欲しい、また香川県が実施する施策がそうであって欲しいと願う。

「専門的支援が必要な障害者への支援」については、まず当該計画の性格からして、「専門的支援が必要な障害児への支援」ではないかと考える。また、この表現であれば「専門的支援が必要でない障害児」等存在するのかと疑問に感じる。

加えて、「強度行動障害」については、本来の障害ではなく、本来の障害特性に対する不適切な対応が繰り返された結果として、本人の状態が極度に悪化してしまった状態であると考えられるため、「対応」ではなく、「発現させないための適切な支援」を行うことが大切であると考ええる。

○【P. 94 パーマネンシー保障】

「プレコンセプションケア」と同様の理由で、説明が必要と考える。

○【「できる限り良好な家庭的環境」】

一般的には、「」で括らずとも、「できる限り良好な家庭的環境において…」と文章を続けていく方が自然な日本語である。「児童福祉法」の条文上でこの用語が使われているために、「」で括っているのであろうと思うが、もしそうであるならば、例えば「児童福祉法で規定された「できる限り良好な家庭的環境」において…」と記す方が一般の方が違和感なく読めると考える。

○【被虐待による愛着形成の課題】

愛着形成に課題が生じ得るのは、被虐待のみが原因ではないため、単に、「愛着形成の課題や、障害、…」の方が良いと考える。

○【P. 108～ ひとり親家庭への支援】

「ひとり親家庭の親は、子育てと生計の担い手という二重の役割をひとりで担っており」との表記は、読みようによっては、「男性は外で働き、女性は子育てを行う。」という古典的な考え方を推奨しているように取れなくもないと思うので、単に、「ひとり親家庭の親は、住居、収入、…」の方が良いと考える。

○【P. 113～ 第5 I 教育・保育の量の見込みと確保方策】

法規定上、必須記載項目であることは承知しているが、基本的に行政職員や認定こども園等を運営している事業者に関わりがあることであり、一般の県民には内容的にも専門的であり関心も高くないのではないかと考える。可能であれば、参考資料的な位置付けで巻末等に配置することは出来ないものかと感じる。

○【P. 119～ 地域子ども・子育て支援事業の提供体制】

実施している市町と実施していない市町がある事業においては、実施している市町名を記した方が、情報を求めている当事者には優しい対応ではないかと考える。

○【P.127～ 検証指標】

現状や出典に、「(香川)」や「香川県～」と記載があるものは解るが、そうでないもの（例えば「妊娠11週以内での妊娠の届け出率」等）は、香川県の割合なのか、全国の割合なのか解らない。

また、「★」のように都道府県別データの無い項目については、貴課或いは支援会議等で（全国値を参考に）独自に香川県のデータを算出することは出来ないのか。一から県民を対象に調査・集計を行う必要があるのであれば現実的ではないと思うが、計算により算出出来るのであれば、行うべきではないかと考える。

○【全体を通して感じたこと】

まず、一社会福祉士として、こども家庭福祉施策全体を網羅している、非常に秀逸な計画と感じました。一社会福祉士として興味深く読み進めさせて頂きました。

ただ、「秀逸ではあるが、当事者（こどもや子育て家庭）にとって、あまり寄り添えていないのではないか。」という印象を受けました。

何点が意見させて頂きましたが、法規定を参照する際の書きぶりや、専門用語等、一般の県民には非常に解かり辛いのではないかなと感じる箇所が見受けられました。この「こども計画」は、誰のための計画でしょうか。行政職員や支援会議委員の皆様が満足されるための計画でしょうか。或いは、我々専門職者やこども・子育て家庭支援の事業を行っている事業者が学ぶためのテキスト的な文書でしょうか。香川県民（特に現在子どもや子育て家庭当事者である方）のための計画ではないでしょうか。もしそうであるならば、その方たちが読んだ際の解りやすさという点に最大の注意を払う必要があるように感じます。

次に、相談しやすい環境整備等を書かれている箇所が何力所か見受けられるが、相談を受け止める窓口担当者等が、「そのようなことは（客観的に）たいしたことではない。」と受け止めてしまい、それを無意識のうちに態度に表してしまったら、何の意味もないどころか、相談者を余計に傷つけてしまうことになってしまうと考える。「客観的にどんなに小さな問題であろうと、相談者本人にとっては大問題。大問題だからこそ、指導や助言をするよりも、相談者と一緒に考える。」という認識を持つことが必要であると考えます。加えて、「こどもの発達段階に応じた保護者への助言」といった記載があったように思うが、全てのこどもが標準的な発達の道筋を辿る訳ではない。必要に応じて専門機関の受診や相談を案内することも大切ではあるが、保護者に不安を与えてしまう場合もあり得る。なので、年齢等に捉われ過ぎず、「今、このこどもはこのような段階にいるから、こういった関わり方が効果的ですよ。」といった助言を出来ることも大切と考える。

最後に、近年いわゆる「高松乳児3遺体」事件という事件が起きてしまったことも踏まえ、プレコンセプションケアや、同じような事案を起こさせないための対策をもう少し踏み込んで計画に盛り込んでも良かったのではないかと考える。